

国立国語研究所学術情報リポジトリ

KOTONOHA Contest 2020 Excellence Award Winner 3

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松尾, 亮太郎, Matsuo, Ryotaro メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003181

氏名(所属)	松尾 亮太郎 (北摂リサーチ)
テーマ名	一貫した歴史的増加・減少

1. 「降る」

- 検索条件
語彙素が「降る」

前方共起条件を追加する

キー キーの条件を指定しない

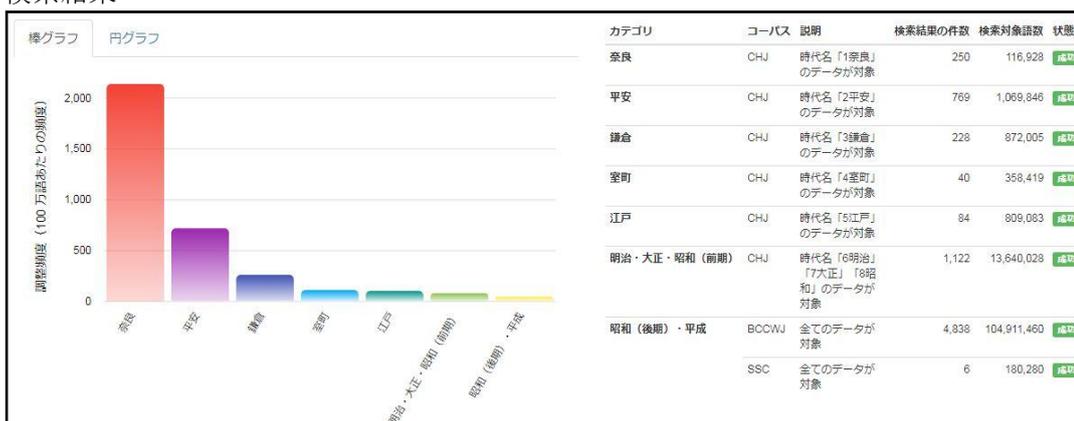
語彙素 条件を削除する 条件を追加する

後方共起条件を追加する

検索対象

コーパス毎 書き言葉・話し言葉 時代

- 検索結果



棒グラフでは分かりにくいですが、室町の調整頻度は 111.601、江戸は 103.821、明治・大正・昭和(前期)は 82.258 であり、一貫した減少という条件は満たしている。

- 考察
「降る」という語は、「雨」や「雪」といった語とともに使われることが多いと予想される。用例を確認すると、例えば、昭和(後期)・平成(SSC)の6事例中5事例で、前文脈または後文脈のどちらか一方、もしくは両方に「雨」が含まれていた。「降る」の調整頻度の一貫した歴史的減少は、「雨」や「雪」の調整頻度の歴史的推移とともに説明できる可能性がある。

2. 「雨の」

- 検索条件
書字形出現形が「雨」 + 書字形出現形が「の」で品詞の中分類が助詞-格助詞

前方共起条件を追加する

キー キーの条件を指定しない

書字形出現形 雨

後方共起

書字形出現形 の

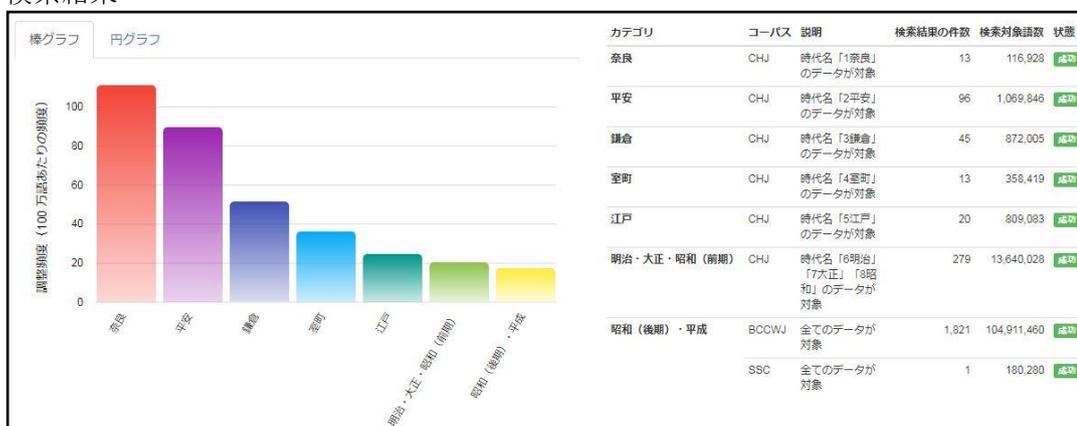
AND の が

後方共起条件を追加する

検索対象

コーパス毎 書き言葉・話し言葉 時代

● 検索結果



● 考察

「雨の」という表現は、「降る」という語とともに使われることが多いと予想される。用例を確認すると、例えば、奈良（CHJ）の13事例中13事例で、前文脈または後文脈のどちらか一方、もしくは両方に語彙素「降る」が含まれていた。1. で示した「降る」の調整頻度の一貫した歴史的減少と2. の検索結果を合わせて考えると、雨の描写や話題が歴史的に減少し、それに伴って「降る」の調整頻度も一貫した歴史的減少を示したのではないかと推察される。

なお、「雪の」という表現について「雨の」と同様の検索条件で検索すると、室町で調整頻度が江戸より小さくなり、一貫した減少には該当しなかった。それ以外では歴史的減少の傾向が見られた。

また、「雨が」という表現を「雨の」と同様の検索条件で検索すると、奈良、平安、鎌倉が用例数ゼロであるので一貫した歴史的増加の条件は満たしていないものの、室町、江戸、明治・大正・昭和（前期）、昭和（後期）・平成に限って見れば一貫して調整頻度が大きくなっていった。「雨の」という表現に代わって、「雨が」という表現が使われるようになり、「雨の」という表現の調整頻度が一貫した歴史的減少を示したのではないだろうか。